

**SCNet** 砥粒加工学会専門委員会「セレンディピティ創造科学ネットワーク」  
【セレンディピティの実態に係る全体アンケート調査票】

**属性に関する一般質問** \*次の中から該当する項目を一つずつ選択してください。選択した項目には、適宜マーカ、○印、□囲み、赤字にするなどして判別できるようにしてください。( )への記入は任意です。

【業種】 生産機械・器具、産業機械・器具、業務機械・器具、電気機械・器具、情報通信機器・器具、電子機器・器具、光学機器・器具、石油製品・潤滑油、プラスチック・ゴム製品・部品、鉄鋼材料・製品・部品、非鉄金属材料・製品・部品、非金属材料・製品・部品、交通機械・機器、ソフトウェア・システムデザイン、機械設計・加工サービス、情報通信・情報サービス、インフラ設備・機器、商社・卸売、医療・福祉、出版・メディア、技術士・弁理士、技術事務所(コンサルタント業)、自営業・自由業、学術・開発研究機関、教育・研究機関、その他( )

【職種】 製造技術、生産管理、設備・保全、品質保証、開発・設計、知的財産、マーケティング、ロジスティクス、営業・販売、企画・管理、経営・役員、コンサルティング、教育・研究、学生・院生、その他( )

【年齢】 20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳代、80歳以上

【会員資格】 正会員、賛助会員、名誉会員、学生会員、非会員

【所属専門委員会等】 次世代固定砥粒加工プロセス専門委員会、CBN&ダイヤモンド先進加工研究専門委員会、研削・研磨盤の高度化専門委員会、研磨の基礎科学とイノベーション専門委員会、未来志向形精密加工工具の開発に関する専門委員会、セレンディピティ創造科学ネットワーク専門委員会、他学協会研究分科会・専門委員会 (複数選択可)

\*回答する(選択した)番号と項目には、それぞれ適宜マーカ、○印、□囲み、赤字にするなどして判別できるようにしてください。コメント欄(任意、非公開)には、選択肢の「その他」等に対する具体的な内容、設問・回答に対する指定内容、ご意見等を自由にご記入ください。

**質問(1) セレンディピティ\*に関わる一般内容**

(1-1) あなたが経験したセレンディピティの回数について、次の中から該当する番号(回数)をひとつ選択してください。

1. なし(質問(4)へ進んでください)、2. 1～3回、3. 4～6回、4. 7～9回、5. 10回以上、6. わからない(質問(4)へ進んでください)

コメント:

\* (1-1)で「1. なし」または「6. わからない」を選択された方は、質問(4)へ進んでください。それ以外の方は、このまま続けて次の設問へ進んでください。

\* 複数回のセレンディピティ経験をお持ちの方は、最も貢献(成果)の大きかったと思われる1件に関して回答してください。統計情報の精度向上のため2件以上の回答を歓迎いたします。

(1-2) 今回対象とする(選定した)1件のセレンディピティは、いずれの年齢で経験(遭遇)しましたか。次の中から該当する番号(年齢)をひとつ選択してください。

- |  |
|--|
| 1. 20 歳代、2. 30 歳代、3. 40 歳代、4. 50 歳代、5. 60 歳代、6. 70 歳代、7. 80 歳以上、<br>8. わからない |
|--|

コメント:

(1-3) 対象としたセレンディピティは、いずれの職務(業務)で生じましたか。次の中から該当する番号(職務)をひとつ選択してください。(「22. その他」を選択の場合は、直下のコメント欄に可能な範囲でご記入ください(任意)。)

- |  |
|--|
| 1. 基礎研究、2. 応用研究、3. 技術開発、4. 生産技術、5. 製品・要素開発、6. 工程・設備設計、7. 生産管理、8. 量産・事業化、9. 特許・知財化、10. 品質管理、11. 製造業務、12. 技術営業、13. 販売営業、14. 顧客対応、15. 市場調査・開拓、16. 商品企画、17. 経営・管理、18. コンサルティング、19. 教育・研究、20. 社会貢献、21. 学生研究、22. その他、23. わからない |
|--|

コメント:

(1-4) 対象としたセレンディピティは、(1-3)で選択した職務(業務)の達成(成果)にどの程度貢献しましたか。次の中から該当する番号(貢献度)をひとつ選択してください。

- |   |
|---|
| 1. 貢献はなかった、2. やや貢献した、3. ある程度貢献した、4. 大きく貢献した、5. 非常に大きく貢献した、6. その他、7. わからない |
|---|

コメント:

(1-5) (1-3)で選択した職務(業務)の当初の目的/目標と、その後に「偶然\*<sup>1</sup>/閃き\*<sup>2</sup>の結果として得られた成果(貢献)」との間の目的合致度(目的指向性)について、どの程度の相関がありましたか。次の中から該当する番号(合致度)をひとつ選択してください。

- |  |
|--|
| 1. 当初から追い求めてきたこと(非常に強い合致度)、2. 当初から想定していたこと(強い合致度)、3. 当初は想定しえなかったこと(弱い合致度)、4. 当初の目的とはほぼ異なること(強い非合致度)、5. 当初の目的とはまったく異なること(非常に強い非合致度)、6. その他、7. わからない |
|--|

コメント:

(ご参考)

\*1「偶然」とは、人の外界で偶発的に生じる想定外の事象(眼前の事実)のこととする(人は偶然を洞察し発見に至る)。例えば、**実験・観察等の実務(仮説検証)**中に生起した「偶然」の事象に着眼/洞察し、その後に**発見/発明**に至る。

\*2「閃き」とは、人の内外界での刺激(事象、潜在意識)から偶発的に生じる啓示のこととする(人は偶然のトリガーで閃きを得る)。例えば、**思考・瞑想等の活動(仮説構築)**中に何らかの触発により「閃き」を得て、**瞬時に着想/発見**に至る。

(1-6)「偶然/閃きに遭遇」したのは、(1-3)で選択した職務のいずれの進捗段階(場面)ですか。次の中から該当する番号(進捗段階)をひとつ選んだうえで、その番号の右に挙げた項目(場面)の中から最も適当な場面をひとつ選択してください。(該当する番号とそれに属した項目を一つ選択してください。「その他」を選択の場合には、直下のコメント欄に可能な範囲でご記入ください(任意)。)

- |  |
|--|
| 1. 計画・構想段階: 企画起想、課題起案、仮説構築、計画構想、情報収集、事前準備、試作、予備実験、生産計画、その他                                       |
| 2. 実務・実験段階: 実験、試験、観察、評価、分析、考察、試行錯誤、潜在思考、開発、設計、製造、メンテナンス、営業、販売、改善、管理、経営、報告・連絡、相談(打合せ)、業務中断・休止、その他 |
| 3. 解決・解明段階: 再現・検証、洞察、クレーム対策、改良、発見、解析、解明、論理構築、解決策、その他   |
| 4. 成果・貢献段階: 発明、発表、知財化、改良化、具現化、商品化、論文化、成果報告書、販路開拓、顧客対応、その他  |
| 5. その他   |
| 6. わからない   |

コメント:

(1-7)「偶然/閃きの結果として得られた成果(貢献)」には、どの程度の意図性\*(必然性)がありましたか。あるいは逆にどの程度の偶発性\*がありましたか。次の中から該当する番号(内容)をひとつ選択してください。(※意図性≒必然性、\*偶発性≒不測性)

- |   |
|---|
| 1. 強く意図していた成果(強い必然性あり)、2. 意図していた副産物(やや強い必然性あり)、3. 意図にほぼ沿った副産物(弱い必然性あり)、4. 意図に沿わない副産物(弱い偶発性あり)、5. まったく意図していない(意図から乖離した)成果(強い偶発性あり)、6. その他、7. わからない |
|---|

コメント:

(1-8)「偶然/閃きが契機となってもたらされた成果」(資金獲得以外の貢献)について、次の中から該当する番号(成果分類)および当該番号の右に挙げた項目(成果)をそれぞれ選択してください(番号と項目共に複数選択可)。(該当する番号とそれに属した項目をそれぞれ自由に選択してください。「20. その他」を選択の場合には、直下のコメント欄に可能な範囲でご記入ください(任意)。)

1. 発明(先使用权)、特許出願、特許権利化、2. 試用、試作、製品開発、3. 実用、実装、販売、4. 工程導入、効率化、工程改善、5. 商品化、プロジェクト化、6. 量産、事業化、7. プレスリリース、情報誌掲載、8. 講演、展示、学会発表、国際会議、9. 紀要、技報、社報、執筆、10. 論文誌掲載、国際ジャーナル誌掲載、著作、11. 受賞、褒賞、12. 人材雇用、人材育成、人材教育、13. 顧客獲得、販路拡大、14. クレーム解決、15. 業務改善、作業改善、16. 共同研究化、組織展開、17. 教育改善、教育開発、18. 学位取得、資格取得、19. 特になし、20. その他、21. わからない

コメント:

(1-9)「偶然/閃きが契機となって獲得した競争的資金等」について、次の中から該当する番号(資金分類)および当該番号の項目(費目)をそれぞれ選択してください(番号と項目共に複数選択可)。(該当する番号とそれに属した項目をそれぞれ自由に選択してください。直下のコメント欄には、獲得資金の具体的な名称や「12. その他」の資金名等について可能な範囲でご記入ください。)

1. 科研費等学振関連経費:基盤 S(旧一般 S)、基盤 A(旧一般 A・試験 A)、基盤 B(旧一般 B・試験 B)、基盤 C(旧一般 C)、挑戦開拓、挑戦萌芽(旧萌芽)、若手 A、若手 B(旧若手)、奨励、特別推進、新学術領域、学術変革領域、特定領域、重点領域、国際共同研究、特別研究員研究奨励金、特別研究員奨励費、その他、2. JST 関連経費、3. 省庁関連経費、4. 自治体関連経費、5. 学協会等助成金、財団等助成金、6. 受託研究費、共同研究費、奨学寄付金、7. 内部調達資金、内部補助経費、8. 人材開発経費、教育関連経費、9. 奨励金、奨学金、報奨金、10. 自己資金(銀行融資等含む)、11. 特になし、12. その他、13. わからない

コメント:

(1-10) 今回対象としたセレンディピティについて、当時はどの程度の特殊性\*(自身の組織外で類似のセレンディピティが発生する可能性)があったと思われますか。次の中から該当する番号(内容)をひとつ選択してください。( \*特殊性≡固有性・唯一性)

1. 似たようなセレンディピティが生じる可能性は非常に高かった(特殊性が非常に低い)、2. 似たようなセレンディピティが生じる可能性は高かった(特殊性が低い)、3. 似たようなセレンディピティが生じる可能性はあった(特殊性がある)、4. 似たようなセレンディピティが生じる可能性は低かった(特殊性が高い)、5. 似たようなセレンディピティが生じる可能性は非常に低かった(特殊性が非常に高い)、6. その他、7. わからない

コメント:

(1-11) 今回対象としたセレンディピティの内容(偶然/閃きの実際)について、可能な範囲で簡潔に記述してください(任意、非公開)。

**直接記入:**

(1-12) 今回対象としたセレンディピティで経験したのは「偶然」ですか、それとも「閃き」ですか。次の中から該当する番号(項目)をひとつ選択して、次の質問へ進んでください。

1. 偶然(質問(2)へ進んでください)、2. 閃き(質問(3)へ進んでください)、3. どちらともいえない(質問(2)と質問(3)の両方に回答ください)、4. わからない(質問(4)へ進んでください)

\*「1. 偶然」を選択された方は質問(2)に回答後に質問(4)へ、「2. 閃き」を選択された方は質問(3)に回答後に質問(4)へ、それぞれ進んでください。「3. どちらともいえない」を選択された方は、ご面倒でも質問(2)と質問(3)の両方に回答後に質問(4)へ進んでください。「4. わからない」を選択された方は質問(4)へ進んでください。

\*回答する(選択した)番号と項目には、それぞれ適宜マーカ、○印、□囲み、赤字にするなどして判別できるようにしてください。コメント欄(任意、非公開)には、選択肢の「その他」等に対する具体的内容、設問・回答に対する指定内容、ご意見等を自由にご記入ください。

**質問(2)「偶然」に関わる具体的内容** \*質問(1)で対象とした「偶然」に関してご回答ください。

(2-1)「偶然との遭遇場所」について、次の番号(場所分類)の中からひとつ選んだうえで、その番号の右に挙げた項目(場所)の中から最も適当な場所をひとつ選択してください。(該当する番号とそれに属した項目を一つ選択してください。「その他」を選択の場合には、直下のコメント欄に可能な範囲でご記入ください(任意)。)

- |           |   |
|-----------|---|
| 1. 職場内勤中: | オフィス・事務室, 工場・製造現場, 実験室・作業室, 図書室・資料室, 会議室・MTG ルーム, 講義室・研修室, 研究室・学生室, 休憩室・食堂, 構内移動中、その他 |
| 2. 職場外勤中: | 学会・業界会合, 展示会, 講演会・セミナー・研修, 顧客先・共同研究先, 他社・他大学・他機関, 交流会・懇談会, 移動中(通勤・通学含む), その他          |
| 3. 在宅勤務中: | オンライン業務, デスクワーク, 学習・調査・研修, その他  |
| 4. その他    |   |
| 5. わからない  |   |

コメント:

(2-2)「偶然が生じた誘因(きっかけ)」について、次の番号(誘因分類)の中からひとつ選んだうえで、その番号の右に挙げた項目(きっかけ)の中から最も適当な内容をひとつ選択してくだ

さい。(該当する番号とそれに属した項目を一つ選択してください。「その他」を選択の場合には、直下のコメント欄に可能な範囲でご記入ください(任意)。)

1. 業務由来: 目的意識、潜在意識、問題認識、綿密な準備・調査、試行錯誤、執拗な実験、精緻な観察/評価、豊富な暗黙知/経験知、協働作業、適時な意見交換、建設的な会議/打合せ、その他
2. 失敗由来: 条件ミス、測定ミス、管理ミス、うっかりミス、誤操作、手違い、間違い、勘違い、誤解、思い込み、誤情報、故障、誤動作、手抜き、慣れ、その他
3. 情報由来: 豊富な情報、適時な情報交換、オープンな情報共有、多様なネットワーク情報、無関係な情報、伝聞情報、検索情報、SNS 情報、AI 情報、その他
4. その他
5. わからない

コメント:

(2-3)「偶然の事象に遭遇」した人(最初に違和感(異変)を察知した(気付いた)人)は、どなたですか。次の中から該当する番号(対象者)をひとつ選択してください。

1. 自身, 2. 上司・指導教員, 3. 部下・学生, 4. 同僚・協働者(同組織), 5. 共同研究者・協働者(別組織), 6. その他, 7. わからない

コメント:

(2-4)「偶然の事象に潜在(内在)する価値・真理」を最初に着眼・洞察した(見抜いた)人は、どなたですか。次の中から該当する番号(対象者)をひとつ選択してください。

1. 自身, 2. 上司・指導教員, 3. 部下・学生, 4. 同僚・協働者(同組織), 5. 共同研究者・協働者(別組織), 6. その他, 7. わからない

コメント:

(2-5)「偶然の事象に遭遇」する以前に当該業務へ注力した度合い(事前の注力度)は、他の業務へのそれと比較してどの程度でしたか。次の中から該当する番号(注力度)をひとつ選択してください。

1. 少なめの注力だった, 2. 同等程度の注力だった, 3. 多めの注力だった, 4. かなり多めの注力だった, 5. 最も多めの注力だった, 6. その他, 7. わからない

コメント:

(2-6)「偶然に潜む真理」の全容は解明できましたか(または解明中ですか)。次の中から該当する番号(解明度)をひとつ選択してください。

1. 解明しなかった(不明のまま)、2. 解明できなかった、3. 現在解明中である、4. ある程度解明できた、5. 十分解明できた、6. その他、7. わからない

コメント:

(2-7) 上記解明にはどの程度の期間を要しましたか(または要していますか)。次の中から該当する番号(期間)をひとつ選択してください。

1. 半年以内、2. 1年前後、3. 2年前後、4. 3年前後、5. 4年以上、6. その他、7. わからない

コメント:

(2-8) 「偶然の事象に遭遇」した以後に当該業務へ注力した度合い(事後の注力度)は、他の業務へのそれと比較してどの程度でしたか。次の中から該当する番号(注力度)をひとつ選択してください。

1. 少なめの注力だった、2. 同等程度の注力だった、3. 多めの注力だった、4. かなり多めの注力だった、5. 最も多めの注力だった、6. その他、7. わからない

コメント:

\*回答する(選択した)番号と項目には、それぞれ適宜マーカ、○印、□囲み、赤字にするなどして判別できるようにしてください。コメント欄(任意、非公開)には、選択肢の「その他」等に対する具体的内容、設問・回答に対する指定内容、ご意見等を自由にご記入ください。

**質問(3) 「閃き」に関わる具体的内容** \*質問(1)で対象とした「閃き」についてご回答ください。

(3-1) 「閃きが生じた場所」について、次の番号(場所分類)の中からひとつ選んだうえで、その番号の右に挙げた項目(場所)の中から最も適当な場所をひとつ選択してください。(該当する番号とそれに属した項目を一つ選択してください。「その他」を選択の場合には、直下のコメント欄に可能な範囲でご記入ください(任意)。)

- |           |   |
|-----------|---|
| 1. 職場内勤中: | オフィス・事務室, 工場・製造現場, 実験室・作業室, 図書室・資料室, 会議室・MTG ルーム, 講義室・研修室, 研究室・学生室, 休憩室・食堂, 構内移動中、その他 |
| 2. 職場外勤中: | 学会・業界会合, 展示会, 講演会・セミナー・研修, 顧客先・共同研究先, 他社・他大学・他機関, 交流会・懇談会, 移動中(通勤・通学含む), その他          |
| 3. 在宅勤務中: | オンライン業務, デスクワーク, 学習・調査・研修, その他  |
| 4. 私的活動中: | 趣味関連, 運動関連, 自室, リビング, キッチン, 浴室, 寝室, 外出先, 休暇先, その他                                     |
| 5. その他    |   |
| 6. わからない  |   |

コメント:

(3-2)「閃きが生じた誘因(きっかけ)」について、次の番号(誘因分類)の中からひとつ選んだうえで、その番号の右に挙げた項目(きっかけ)の中から最も適当な内容をひとつ選択してください。(該当する番号とそれに属した項目を一つ選択してください。「その他」を選択の場合には、直下のコメント欄に可能な範囲でご記入ください(任意)。)

- |            |   |
|------------|---|
| 1. 職場内勤由来: | 目的意識、潜在意識、問題認識、準備作業、試行錯誤、実験作業、観察・評価、協働作業、日常業務、文献調査、資料整理、打合せ、意見交換、雑談、失敗、故障、発想転換、休憩、その他 |
| 2. 職場外勤由来: | 学会、展示会、講演会、交流会、見学会、研修会、客先対応、通勤、休憩、持ち帰り仕事、その他  |
| 3. 情報由来:   | 情報共有、外部情報、無関係な情報、伝聞情報、検索情報、SNS情報、AI情報、暗黙知、形式知、誤情報、その他                                 |
| 4. 在宅勤務由来: | オンライン業務、デスクワーク、学習/調査/研修、休憩、その他  |
| 5. 私的活動由来: | 趣味、運動、TV視聴、団欒、家事、自室、リラックス、入浴、就寝、買物、休暇、地域活動、その他  |
| 6. その他     |   |
| 7. わからない   |   |

コメント:

(3-3)「閃きが生じた当事者」は、どなたですか。次の中から該当する番号(対象者)をひとつ選択してください。

- |  |
|--|
| 1. 自身, 2. 上司・指導教員, 3. 部下・学生, 4. 同僚・協働者(同組織), 5. 共同研究者・協働者(別組織), 6. その他, 7. わからない |
|--|

コメント:

(3-4)「閃きに内包する価値・真理」を洞察した(見抜いた)人は、どなたですか。次の中から該当する番号(対象者)をひとつ選択してください。

- |  |
|--|
| 1. 自身, 2. 上司・指導教員, 3. 部下・学生, 4. 同僚・協働者(同組織), 5. 共同研究者・協働者(別組織), 6. その他, 7. わからない |
|--|

コメント:

(3-5)「閃きが生起」する以前に当該業務へ注力した度合い(事前の注力度)は、他の業務へのそれと比較してどの程度でしたか。次の中から該当する番号(注力度)をひとつ選択してください。



1. 少なめの注力だった、2. 同等程度の注力だった、3. 多めの注力だった、4. かなり多めの注力だった、5. 最も多めの注力だった、6. その他、7. わからない

コメント:

(3-6) 「閃きに潜む真理」の全容を解明できましたか(または解明中ですか)。次の中から該当する番号(解明度)をひとつ選択してください。

1. 解明しなかった(不明のまま)、2. 解明できなかった、3. 現在解明中である、4. ある程度解明できた、5. 十分解明できた、6. その他、7. わからない

コメント:

(3-7) 上記解明にはどの程度の期間を要しましたか(または要していますか)。次の中から該当する番号(期間)をひとつ選択してください。

1. 半年以内、2. 1年前後、3. 2年前後、4. 3年前後、5. 4年以上、6. その他、7. わからない

コメント:

(3-8) 「閃きが生起」した以後に当該業務へ注力した度合い(事後の注力度)は、他の業務へのそれと比較してどの程度でしたか。次の中から該当する番号(注力度)をひとつ選択してください。

1. 少なめの注力だった、2. 同等程度の注力だった、3. 多めの注力だった、4. かなり多めの注力だった、5. 最も多めの注力だった、6. その他、7. わからない

コメント:

\*回答する(選択した)番号と項目には、それぞれ適宜マーカ、○印、□囲み、赤字にするなどして判別できるようにしてください。コメント欄(任意、非公開)には、該当番号を選択した理由や「5. その他」に対する具体的内容、設問・回答に対するご意見等を自由にご記入ください。

#### **質問(4) セレンディピティ人材及び組織マネジメントに関わる内容**

(4-1) 「セレンディピティを引き寄せる個人」の存否について、どう思いますか。次の中から該当する番号をひとつ選択してください。

1. 存在すると思う、2. 存在しないと思う、3. どちらともいえない、4. わからない、5. その他

コメント:

(4-2) 「セレンディピティを誘発させる組織」の存否について、どう思いますか。次の中から該当する番号をひとつ選択してください。

1. 存在すると思う、2. 存在しないと思う、3. どちらともいえない、4. わからない、5. その他

コメント:

(4-3) 「セレンディピティを引き寄せるために有効な個人の活動(マネジメント)」の有無について、どう思いますか。次の中から該当する番号をひとつ選択してください。

1. 存在すると思う、2. 存在しないと思う、3. どちらともいえない、4. わからない、5. その他

コメント:

(4-4) 「セレンディピティを誘発させるために有効な組織の活動(マネジメント)」の有無について、どう思いますか。次の中から該当する番号をひとつ選択してください。

1. 存在すると思う、2. 存在しないと思う、3. どちらともいえない、4. わからない、5. その他

コメント:

(4-5) 「創造」のプロセスの一部分である「発想」のプロセスを、AIが補完できる(ようになる)と思いますか。次の中から該当する番号をひとつ選択してください。

1. 補完できる(ようになる)と思う、2. 補完できないと思う、3. どちらともいえない、4. わからない、5. その他

コメント:

(4-6) 複数の発想の中から、AIが最終案(準最適策・解決案)を判断(選択)できる(ようになる)と思いますか。次の中から該当する番号をひとつ選択してください。

1. 判断できる(ようになる)と思う、2. 判断できないと思う、3. どちらともいえない、4. わからない、5. その他

コメント:

(4-7) 「偶然」や「閃き」の契機を経ずに意外な発見や創造に至ると、「AIと人との共創」の可能性について、どのように思いますか。次の中から該当する番号をひとつ選択してください。

1. 可能性はあると思う、2. 可能性はないと思う、3. どちらともいえない、4. わからない、5. その他

コメント:

(4-8) 「セレンディピティの意図的(能動的)創出」の可能性について、どのように思いますか。次の中から該当する番号をひとつ選択してください。

1. 可能性はあると思う、2. 可能性はないと思う、3. どちらともいえない、4. わからない、5. その他

コメント:

(4-9) セレンディピティを引き寄せる人のコンピテンシー(資質および行動特性)に関心はありますか。次の中から該当する番号をひとつ選択してください。

1. 関心がある、2. 関心はない、3. どちらともいえない、4. わからない、5. その他

コメント:

(4-10) セレンディピティを誘発する組織の体制や風土に関心はありますか。次の中から該当する番号をひとつ選択してください。

1. 関心がある、2. 関心はない、3. どちらともいえない、4. わからない、5. その他

コメント:

\*本アンケート調査の趣旨や内容はもちろん、本専門委員会の運営や活動に対してご意見やご要望等がございましたら、遠慮なくお寄せください(任意)。

ご意見等:

ご協力いただきありがとうございました。 セレンディピティ創造ネット運営委員会

【実施責任者・問合せ先】

砥粒加工学会専門委員会「セレンディピティ創造科学ネットワーク」運営委員会

委員長 森田昇(千葉大学名誉教授 グランドフェロー)

運営委員会代表メール:[jsatcsn@gmail.com](mailto:jsatcsn@gmail.com)、または大学メール:[nmorita@chiba-u.jp](mailto:nmorita@chiba-u.jp)

■本専門委員会の令和5年度活動報告として、本委員会内で施行した「セレンディピティの実態に係る先行事前アンケート調査分析結果」が学会 HP に掲載されていますので、ご面倒でも下記 URL からご覧いただき、本アンケートのご参考にして頂けましたら幸いです。 本会 URL: <https://www.jsat.or.jp/subcommit/11/report>

以上